

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的長期研修】

受託団体名 笠岡国際交流協会

1 事業の趣旨・目的

笠岡国際交流協会日本語講座で上級の日本語を学ぶ外国人が増えたこともあるが、受講生たちは平成20年初級を学び、もっと知識を得たいという目的で中級を学んだ。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月31日	笠岡国際交流協会	8人	日本語講座を通しての定住外国人の展望 — 外国人が日本人社会で幸せに暮らすために	・ 自信を持たせるには ・ 言葉は信頼を生む ・ 就労につながる日本語を教える ・ 子どもの日本語をどうするか。セミリンガルにならないように ・ 大学などに入った人を見せて 夢を持たせる。
2月3日	笠岡国際交流協会	7人	地域の国際化について	・ 外に出て行く国際化よりも足下の国際化 ・ 今までいなかったような僻地にも、外国人が働いている ・ 日本語ボランティアは次第に枯渇していく可能性がある ・ 学習者の目的意識を明確にするためにも、日本語講座は有料にすべき

				・ 短期集中で教えても良い ・ 支援する、されるの固定化を避ける ・ 勉強しながら色々な人に出会い成長していくなど
--	--	--	--	---

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)

3 研修講座の内容について

- (1) 研修講座名 笠岡国際交流協会日本語教育講座
- (2) 研修の目標 中級を学ぶ
- (3) 受講者の総数 13 人
- (4) 開催時間数(回数) 40 時間 (20 回)
- (5) 参加対象者の要件 平成 20 年度の受講者。日本語を教えたいという熱意のある人
- (6) 受講者の募集方法
主に昨年度の受講者。機関誌「えくすちえんじ」で周知。また、笠岡市竹喬美術館でのドナート・リッチョーニのオルガネットコンサートでのパンフレットの中に記載し、笠岡国際交流協会会員でない不特定多数の人に配布した。
- (7) 研修会場
ア 講義 笠岡国際交流協会
イ 実習 笠岡国際交流協会 日本語講座
- (8) 使用した教材・リソース 「新日本後語の中級」スリーエーネットワーク
「中級を学ぼう」スリーエーネットワーク
「毎日の聞きとり PLUS40」
「LIVE from TOKYO」
「外国人のためのケータイメール@につぼん」
「季節で学ぶ日本語」
「大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング」
「日本を話そう 第3版」
「中級から上級への日本語」
「カタカナ語スピードマスター」
「すぐに使える十銭日本語シリーズ1擬声語・擬態語」
「1日10分の発音練習」

「さらに進んだスピーチ・プレゼンテーションのための日本語
発音練習」

「小論文への12のステップ」

「大学・大学院留学生の日本語②作文編」

「留学生のためのここが大切文章表現のルール」

「中・上級者のための速読の日本語」

「日本語5つのとびら」

「聞いて覚える話し方 日本語生中継」

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月19日 19:00～21:00	新日本後の中級 1課～4課 受講生による演習 ・ 導入 ・ 授業の組み立て ・ 板書 ・ 事物・実物を使っ て ・ 視覚的に印象に 残すよう ・ 中級の外国人に 合った説明をす る 外国人の「聞く・読む・話 す・書く」をバランスよく伸 ばす	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	7名
6月26日 19:00～21:00	新日本後の中級 5課～8課 受講生による演習	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	7名
7月10日 19:00～21:00	新日本後の中級 9課～11課 受講生による演習	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	6名
7月31日 19:00～21:00	新日本後の中級 12課～14課 受講生による演習	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	8名

8月7日 19:00～21:00	新日本後の中級 15課～17課 受講生による演習	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	9名
8月21日 19:00～21:00	新日本後の中級 18課～20課 受講生による演習	広島県福山市 常石日本語学校 講師 石田 亜由美先生	9名
9月11日 13:00～15:00	「中級を教える」ということ 「話すことを教える」ということ 教科書「中級を学ぼう」	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	10名
9月25日 13:00～15:00	「中級を学ぼう」 1課 本文の使い方 (読み物) 「話すことを教える」 ① インタビュー ② スピーチ ③ ディスカッション ④ ロールプレイ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	10名
10月16日 13:00～15:00	1. ロールプレイの練習 2. 「中級を学ぼう」 2課の使い方 「～という」 「～ほど～はない」 3. 「聞くことを教える」ということ ① 聴解のために ② 「聞くこと」を他の技能と組み合わせて教える ③ 様々な効き方を体験させる	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名
10月23日 13:00～15:00	1. 「～かねない」 2. 2課の使い方 本文 3「聞くことを教える」ということ 「聞くこと」と「話すこと」の	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名

	連携		
11月6日 13:00～15:00	1. 中級用潮解問題 2. 級を学ぼう 3 課の使い方 本文・練習問題 3.「読むことを教える」ということ ① トップダウンの読み ・ 予測の力 ・ スキミング ・ スキャンニング ② ボトムアップの読み ・ 複雑な構造の文の理解 ・ 内容理解の確認	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名
11月20日 13:00～15:00	1. 勘違い 2. 中級を学ぼう 3課 本文・前作業・本作業・後作業 3.「読むことを教える」ということ ① 音読との組み合わせ ② 要約	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	8名
12月3日 13:00～15:00	1. 「～たところ」「～たばかり」「～たとたん」 2. 級を学ぼう 4課 3.「書くことを教える」ということ ・書くことの問題点	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	8名
12月17日 13:00～15:00	1. 「～たところ」「～たばかり」「～たとたん」 2. 中級を学ぼう 5課 3. 「書くことを教える」と	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名

	いうこと ・ 留学生の作文例		
1月8日 13:00～15:00	1. 冬休みの宿題 2. 中級を学ぼう5. 6課 3. 「音声を教える」ということ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	10名
1月21日 13:00～15:00	1. 「～ずに(は)いられない」 2. 中級を学ぼう 6課 3. 「文字・語彙を教える」ということ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名
2月5日 13:00～15:00	1. 「は」の使い方 2. 中級を学ぼう 7課 3. 「日本事情・日本文化を教える」ということ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	9名
2月19日 13:00～15:00	1. 「～ように」の使い方 2. 中級を学ぼう 8課 3. 「日本事情・日本文化を教える」ということ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	8名
3月4日 13:00～15:00	1. 「さえ、しか、こそ」の整理 2. 中級を学ぼう 8課 3. 「評価」について	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	8名
3月11日 13:00～15:00	1. ディベートの課題と進め方 2. 中級を学ぼう 9課 3. 中級を学ぼう 中級中期 4. まとめ	神戸女子大学文学部 准教授 安原 順子	8名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- ・ 時間数は、もっと多くても良い。
- ・ 実習は準備から技術的、精神的負担が大きかったが良い勉強になった。
- ・ 宿題、課題をするのが大変だった。
- ・ 文法・話すこと・聞くことなど、バランスをとりながら教えることの大切さを学んだ。
- ・ もっとスキルアップが必要だ。
- ・ 他の日本語講座、日本語学校での授業を見学したい。

② 実施主体からの研修内容結果評価

学んだことによって自信を持って教えられるようになり、実践し対という気持ちが強くなり、日本語講座に参加するようになった。

毎回出席率がよく、もっと学びたいという意識が高まり、終了を残念に思い、次年度の開催を期待している。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

次第に増え始めた日本語講座受講生のレベルにあった細かい指導をする。

笠岡市及び近郊に定住している外国人に子どもが生まれ、3才になり、保育所に通わせる人が増えている。子どもは、母の母国語、日本語とも不十分である。

言葉の支援、保育所や学校でのマナー、PTAでの活動なども視野に入れて講座を続けていく。また、高校入試などの問題もある。進学説明会はわからないから行かない、という親に高校の説明をしたり、子育ての助言をしていく。学校や地域で問題があると、なるべく関わり、問題解決につとめる。むずかしい問題は、市の機関に行くよう、どんな事柄にはどの機関に行ったらよいか説明する。

笠岡市協働のまちづくり課と協会日本語講座講師、ボランティア日本語講師で相談しながら進めていく。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

ア) 日本語講座生、日本語教育講座生と協力し、多文化共生啓発事業などに進んで参加する。

② 修後の人材活用

ア) 他の市で日本語講座がないところに派遣する。

イ) 岡山県国際交流協会のサポーター登録をしてもらう。

ウ) 笠岡国際交流協会の日本語講座でレベルの違う受講生に細かく対応する。

(12) 今後の課題

受講生はむずかしい宿題なども怠らず、非常に一生懸命取り組んでいる。助成による講座は1年が区切りになっていて、次回も開催できるかどうか分からない。もし、何年か期間がわかれば、積み重ねが目に見える授業の計画をたてて開催できるのではないだろうか。月に2回という開催は、ボランティアの人たちに無理なくできるペースであると思うが、多く深く学びたいという意志には反している。学んだことを生かして授業に役立てている人もいるので、効率よく学べる方法はないかと考える。